

令和8年度 第1回女川町地域公共交通会議 議事録

1. 日 時：令和8年5月20日（水） 13：30～15:00
2. 場 所：女川町役場庁舎 3階大会議室
3. 議 事：(1)職務代理者の指名について
(2)女川町地域公共交通計画に係る KPI の中間評価に伴う町民アンケートの実施について
(3)町民バスへのデマンド交通の導入について
4. その他

■議事概要

(1) 職務代理者の指名について

○事務局から(1)の説明後、質疑をおこなった。

会長 女川町地域公共交通会議設置要綱第5条第3項の通り、職務代理者を会長から指名することになっている。宮城大学 徳永特任教授に会長代理を依頼したいが、よろしいか。

全員 意義なし

(2) 女川町地域公共交通計画に係る KPI の中間評価に伴う町民アンケートの実施について

○事務局から資料1に沿って説明後、以下の質疑をおこなった。

A委員 町民アンケートの中で、バス利用者に対して路線図、時刻表の分かりやすさを把握するとあるが、利用者アンケートは町民だけが対象で、外から来た方の意見は聞くタイミングがないということか。

事務局 現状は、町民バスは町外の利用者がほとんどいない状態になっているため、町民を対象として利用者アンケートを実施したいと考えている。

(3) 町民バスへのデマンド交通の導入について

○事務局から資料2、参考資料①～③に沿って説明後、以下の質疑をおこなった。

B委員 デマンド交通の導入自体には賛成だが、予約システムについて、先行事例では高齢者を中心に予約への抵抗感が見られる。導入によって家族の送迎等へ転換し、利用が減少した例もある。現在の利用者の意見もしっかり取り込んでいただき、乗車体験会の実施等を含め丁寧な周知対応をしていく必要がある。

デマンド交通方式にすると乗合にならないことがほとんどではあるが、仮に市街地で同時に5名程度利用するような状況になるのであれば、定時定路線で残していく選択肢もあり得る。デマンドにしたことで利便性が低下する危険性がある。

シミュレーション結果の中で、待ち時間の低減とあるが、どの時間からの待ち時間か。

- 事務局 市民からの意見集約については、町民アンケートにデマンド交通の項目を追加して聴取する。周知について、南三陸町の事例も参考にしながら、住民に慣れていただくのが重要と感じている。下半期からは、各地区に向いて操作説明会を行い、年明けには試乗会・乗車体験会を開催するなど、スムーズに乗っていただける取組を考えてまいりたい。
- 社会福祉協議会、包括支援センターで「遊びリテーション」という取組があるので、各地区とコミュニケーションを図りながら進めたい。
- 乗合率について、モビリティ研究会の中では、現在の町民バスは「目的地と反対に行ってしまう、左右周りの車両が同時に来る、遠回りになる」などの課題があるといった意見があった。
- シミュレーション結果について、しきい値は10分とし、待ち時間はバス停で待っている時間とトヨタから聞いている。
- B委員 アプリを利用されるのであれば、今どこまでバスが来ているか確認して、近づいてきたらバス停に行くということができるので、待ち時間にはならない。説明会等では誤解の無いように説明いただきたい。
- デマンド交通でリアルタイムの受付にすると、スケジュールが合わず乗合になりづらい課題がある。南三陸町でも、受付締切時間を少し早めるなど、乗合率を高める取組を試行錯誤している。仕様を詰めて、効率的で利便性の高いシステムになるよう検討を進めていただきたい。
- 事務局 デマンド交通の導入については、最終地点ではなく利便性向上の一つの手段と考えている。導入後の利用状況を踏まえながら、改善すべきところは改善し、よりよい運行をしていきたい。
- B委員 一日券を設定する場合、3～4回使ってもよいのか。
- 事務局 現在の町民バスで利用が多いのは、医療センターから薬局、おんまや、金融機関と回って、自宅に帰るというもので、3回、4回利用料金がかかってしまうところ、1日乗車券で何回でも使えるようにしたいと考えている。
- B委員 施設間の短距離での利用が多いということだが、終わりの時間が読めないで直前に予約する形になると思う。中心部での回遊性を高める目的を考えると、中心部は常に定時定路線で回っているというサービスの仕方も考えられる。短距離のスローモビリティとの兼ね合いにもなると思うが、事務局の考えをコメントいただきたい。
- 事務局 中心部の移動については、高齢者のグループからアイデアがあり、シニアカーを活用し、ラスト100mの移動を確保する検討が進んでいる。デマンドで中心部まで来て、スポットでシニアカーを貸し出し、別のスポットで乗り捨てできるようにする。デマンドだけで解決するのではなく、小型モビリティ等も視野に入れて考えていきたい。
- C委員 定時定路線を残しながらデマンドを導入するのか、完全に置き換えるものなのか。タクシー、バス、鉄道もある中で、棲み分け、役割分担を整理してお話いただきたい。

- 事務局 定時定路線からデマンドに置き換え、現在の定時定路線は廃止にする方向で検討している。あくまで町民バスの役割は変わらず、運行方式がデマンドということなので、市外への移動は既存の公共交通を使ってもらうという棲み分けは変わらない。
- C委員 デマンド交通についていろいろなところで議論して進めていくというのは、利用者視点から見ると良い取組だが、あった方がよいかと聞けば当然あった方がよいという意見が出る。実際には予約が億劫、やり方が難しいなどによって使われない事例がある。使う側にどれだけ当事者意識を持って使ってもらうかが持続可能性に関わってくるので、ぜひ地元住民に当事者意識を持っていただきたい。
- 資料はデマンド交通のプラスの面が多く書かれているが、マイナスの面とそれに対する対応策についてもまとめていただき、次回の会議に出してほしい。
- 事務局 モビリティ研究会の進め方として、最初からデマンド交通前提で進んだというわけではない。現在の町民バスの課題出しを進める中で、参加者から運行方式の一つの形としてデマンド交通を出していただいた。乗降場所を自由とする意見もあったが、事務局として既存タクシー事業者への影響も考慮して、現実的なバス停方式とした。
- 内部の検討の際にも予約の手間がデメリットであると認識しており、次回に向けて整理したいと考えている。
- A委員 モビリティ研究会の中で検討されて、参加者から出てきた意見ということで、非常によろしいと思うが、運行開始に当たって手続き等があるので、スケジュール感についてお話いただきたい。
- 5台で運行するということがオペレーションが煩雑になりそうだが、予約のオペレーション、運行の組み合わせは人力でやるのか、システムでやるのか、現時点で考えはあるか。
- 事務局 資料2の7ページにスケジュールを記載している。関係機関との協議としては、上半期中に方向性を決定し、下半期に行政区ごとに説明会を開催していく。プロポーザルで公募の上、AIシステムの導入を想定している。
- A委員 運行主体ではなく、配車システムを入れるためのプロポーザルということで承知した。運行開始は令和9年4月1日でよろしいか。
- 事務局 運行開始は仰る通り。現在の運行事業者への運行委託についてはそのまま、走らせ方を定時定路線からデマンドに変更する。オペレーターは、電話による代行入力を町内の団体に担っていただく仕組みを予定している。
- B委員 従来の定時定路線に代えてシステムを入れるということなので、予約状況によってはJR、ミヤコーバスとの接続が保証できない可能性があり、利用者にとって非常に使いづらいものになりかねない。先行事例でも、システム事業者に対して駅の到着時間を固定できないか、という要望をしてもなかなか対応いただけないことがあるので、柔軟に対応していただける事

業者を選定するとよいと思う。

AI は万能ではなく、融通が利かない部分もある。運行する中でシステム改修したい点も出てくるが、事業者としては自社のシステムをそのまま使ってほしいものなので、向き合ってくれる事業者を選んでいただきたい。

事務局 接続保証はなかなか難しいかもしれないが、予約時に到着時刻指定できると良いのではないかという意見がモビリティ研究会の中でも多数出ている。システムの柔軟な設定変更も、プロポーザルの要件に入れてシステム選定をしていきたいと思う。

D委員 予約をしたが指定場所に利用者が来ない場合はどのような対応となるか。

事務局 あくまでデマンドバスになるので、到着時間の幅が必要になる。時間までにバス停にいないければ発車するという形になる。

会長 利用者には 15 分くらい前にはバス停に来ておいてもらうイメージということではよろしいか。

事務局 予約時間の前には来てもらい、時間までに利用者が来なければ待たずに発車するということになる。

A委員 観光客や出張の方はどうすればよいか。

事務局 観光客も利用は可能。利用登録をしていただく形になるので、ホームページや SNS で周知していく。女川駅からの移動の足として使っていただけるシステムを考えている。

A委員 当日予約でもよいものとするのか。

事務局 当日でも利用できるようにしたいと考えている。参考として様々なシステム事業者と意見交換する中で、当日登録、予約ができるシステムもあると聞いている。

A委員 道の駅など観光客がたくさん来ているが、定時定路線が予約制になるということなので、広く周知して、観光客向けの移動手段がないという事態にならないようにお願いしたい。

事務局 モビリティ研究会には観光協会にも参加いただいております、連携しながら進めていきたい。

会長 様々なご質疑をいただいたが、承認ということでよろしいか。

全員 異議なし

(4) その他

○次回は7月～8月頃に交通会議を開催したいと考えている。日程の詳細が決まり次第、お知らせする。

以上